

みんなのサロン

御坊幼稚園の巻

おとうさん、あのね…



きだ ひなと くん(5さい)

いつもおラーメンとパスター
つくってくれてありがとう★
とってもやさしいパパが
だいすきだよ♥

おかあさん、あのね…



みはら ゆま ちゃん(5さい)

おかあさんといっしょに
またみかんのおじごとしたいな♥
みかんでおりようりもして
みたい★

バスの運転手になりたい！



ぼくの将来の夢は、バスの
運転手です。きっかけは、こ
の間の修学旅行の時のバスの
運転手さんが「バスの運転手
は、乗っている人全員の命を
守ることが大切な仕事だ。」
と言って、とてもかっこ
いいと思ったことです。ぼく
がもし、バスの運転手になれ
たら乗っている人全員の命を
守りたいです。そのためにも、
今は自分や家族、友達の
命を守るようにがんばって
いきたいです。

ぼくの夢
わたしの夢



おおぬま ときさだ
名田 時寧くん
名田小学校6年

エイミーの花まるエッセイ

ハロウィンの古代史

毎年10月31日には、世界中の何百万人もの人々がハロウィンを祝います。怖い話をしたり、お菓子を配ったり、友人や家族と無邪気にお化け屋敷を楽しんだりする時期です。

でも、世界中の多くの人に愛されているこの楽しくて不気味なお祭りが、実はアイルランドのケルト神話に深く根ざしていると言ったらどうでしょう？今月は、ケルトのお祭り「サウィン」についてお話しします。このお祭りは、いつかハロウィンを世界に広めることになる、アイルランド古来の儀式です。

古代ケルト人は、季節の始まりと終わりを告げるために、毎年4つの主要なお祭りを行っていました。10月の最終日から11月の初日まで続く「サウィン」は、秋の終わりと寒い冬の始まりを告げる祭りで、夏の牧草地から牛を下ろし、冬の肉となる家畜を屠殺し、冬を越すために必要な暖かさを象徴するために焚き火をしたのです。

この時代は、生者の世界と「あの世」（死者の国、当時の神々「エイオス・シー」の住む国）の間のバールが弱くなっている信じられていた時代でもあるのです。そのため、亡くなった大切な人が、生者の世界を訪れて過ごすことができたのです。

愛する人や精霊を鎮めるために、食べ物やお供え物が並べられました。また、外出時にはエイオス・シーから身を隠すために仮面をかぶりました。このように精霊から身を守る必要があったことから、多くの西洋の国々で大人気となったもうひとつの儀式が生まれました。それは、カボチャの彫刻です。

今では、かぼちゃに顔を彫り、中に火のついたろうそくを入れて、窓辺に飾る人が多くなりました。最近では遊び感覚でやっているようですが、昔はこのおどろおどろしいランタンが家庭の魔除けになっていたそうです。この時代、アイルランドにはカボチャが伝わっていませんでしたので、人々はカブを使ったのです。そして、その方がはるかに恐ろしかったのです！



(古代のカブを彫刻したもの)